

新登録団体

紹介



NPO法人 葉山ヨットクラブ

NPO法人葉山ヨットクラブは、日本ヨット発祥の地、葉山港を拠点に活動しているヨット愛好家たちの集まりです。東京2020オリンピック・セーリング競技の江の島開催に向けて、積極的に協力するとともに、町民がヨットを身近なスポーツとして楽しめるよう、また、海の楽しさだけでなく、ヨットを通して、海でのマナーや環境のことも広く知ってもらうために次のような活動を行っています。(写真提供・葉山ヨットクラブ) <http://www.hayamayc.jp>



月例ヨットレース

◆町民に帆走体験の機会を提供



ヨット体験試乗への協力

◆ヨット・ボート活動の安全確保に係る事業



荒れた海面や夜間などの悪条件の中でも、落水者を見失わず救助する安全講習会等をおこなっている。

◆地域環境の美化の推進



葉山町の海岸清掃「クリーン葉山」への協力

勝利をめざして

「部活動を支える外部コーチ」

6月から7月、運動部に所属する3年生にとって最後の中学校総合体育大会。県大会を目指し、たくさん汗を流してきた。顧問の先生方も子どもたちに寄り添い、指導している。

その中学生と先生方の活動をサポートするのが外部コーチ。現在、葉山中学校には3名、南郷中学校には2名の外部コーチがいる。



顧問の先生の指導にも熱が入る

葉山中学校・バドミントン部の外部コーチ、大和靖武さんはバド歴25年。6年前に前任者から依頼され外部コーチを引き受けた。

バドミントンは、相手にミスをさせるゲーム。攻撃より守りが大事なため、基本を大事にしている。1年生には、まず練習についていけるように体力作りをする。効率よく上達できるように素振りやフットワークに時間をかける。常に練習方法を工夫していると言います。力がついてくると数多くの技能を教える



基礎を大事に。女子生徒に熱心に教える大和さん

だけでなく、試合に勝つための精神的サポートも心掛けています。

南郷中学校・サッカー部の外部コーチ、渡部俊一さんは外部コーチになって14年。先生と保護者のパイプ役でありたいと、生徒だけでなく、先生・保護者とも多くのコミュニケーションをとる。



笛が鳴るまでボールを追う

サッカーの面白いところは集団スポーツであること。試合終了の笛が鳴るまで、ボールを追う。仲間のために自分の体を盾にしてブロックし、勝利のために強烈なシュートを打つ。



試合を終えた選手に拍手を送る

ひと昔前の指導法とは変わり、現在は繊細な、生徒に寄り添う指導が求められている。中学生の成長は心身ともに著しく、大和さんも渡部さんも、3年間の子どもたちの成長を間近に見ることに外部コーチとしてのやりがいを感じているそうだ。

部活動での日々の努力を見守りながら、一生懸命に練習に励む生徒たちの姿に輝きを感じ、共に勝利を目指している。

そこが葉山 シネマ倶楽部



「映画で人と人をつなげたい」

去る6月15日、葉山図書館ホールに約30人の町民が集まった。目的は映画観賞。親子連れ、友人同士、もちろん1人での参加もあり……文字どおり老若男女が、イタリア映画の名作「ニュー・シネマ・パラダイス」(1988年)を楽しんだ。主催はこの春に発足、ま



第1回映画上映会 チラシ

ちづくり協会の登録団体となった「そこが葉山シネマ倶楽部」。上映会はクラブの第1回勉強会として、一般町民も対象に、参加費無料でメンバー以外の、みんなで映画を観ることを目的に行われた。なるべく多くの人に会を知ってもらうため、今後も定期的に続けていきたいという。

クラブの代表は金江進さん。松竹撮影所のあった映画の街・大船で生まれ、数年前、葉山に移り住んだ。「葉山は自然も文化も豊かで大好きな土地だけれど、これがあればもつといいのにも思っていたのが、映画をみんなで楽しんだり盛り上がった場、映画で人と人が結びついているような街で育ったので、そうした気風が身についていたんでしょ

うね」会う人ごとにそんな思いを話していたので、共感する仲間が増えてきた。現在、顧問という立場でクラブを支える元松竹撮影監督・中橋嘉久さんもその一人。中橋さんの助言を受けながら、会発足までこぎつけられた。映画を観たり、研究したり、あるいは撮影所・撮影地を巡ったり……金江さんはそれ以外にも、会の大きな夢として、葉山で映画を撮ることを考えている。

「映画を撮りたいと宣伝したら、私は脚本書きたい！俳優やりたい！という人も集まってきた。映画解説に興味を持っていた人は先日の上映会でデビューしました。みんなもちろん素人。でも趣味の集団だからそれでいいんです。映画のまわりで各自やりたいことを楽しんで、仲間が増えていけばいいことなしです」。今後は町内の自然に詳しい団体、文化を研究している団体などにも協力を求めながらの映画づくりも進めていきたいという。最近DVDなどを利用して個々で観る機会も増えたが、本来、映画は人が集い、みんなで楽しむもの。映画を中心に、葉山という舞台で多くの出会い、楽しい時間が生まれることを期待したい。

堀内協議体とみんなの食卓

町の福祉課や社会福祉協議会(以下、社協)に寄せられる地域住民や活動団体の悩みや問題を、住民、団体同士で助け合いながら解決しようという動きがある。「葉山堀内協議体」もそのひとつ。そのなかに「はやま食卓プロジェクト実行委員会」がある。子ども食堂として2017年から始まり、昨年4月頃から「みんなの食卓実行委員会」として協議体に参加している。「みんなの食卓」は、4回のプレオープンの際に6月から定期開催に至った。協議体をリードしている「社協」、孤立防止を掲げた「堀内たすけ愛隊」、シニア世代や介護家族の健康維持のために活動する「はっふ」、それぞれから担い手が、会場の「風早商店会」・風早茶房に集まわれない親子など様々な世代。料理を手伝ったり、会話を楽しんだり子どもたちを見守ったりと、参加の形も様々だ。「食卓」という自然な行為でいるものもあつながる。主催の清水さんの言葉だ。それぞれが抱える事情や世代に関わらず、誰もが食卓を囲む。たとえ月に一度であっても、「食卓」を囲むことで解決



遊んだり宿題をしたり

につながることは数え切れない。高齢者の居場所づくり、孤食をなくす、健康維持、地産地消、廃棄野菜の削減など……。なにより人のつながりが生まれる。そこから生まれるものは、それこそ無限大だ。「みんなの食卓実行委員会」では、「みんなの食卓」だけでなく堀内地区での「貯筋運動」も開催している。こちらも、各団体から担い手が集まり、貯筋運動のあと「はっふ」が主催する園芸や、専門家による健康講座、「みんなの食卓」で出す料理の下ごしらえなど、様々な活動が行われている。今後は住民主体で全体を担っていくことが課題であり目標のひとつ。負担にせず、やりたいこと、得意なことに参加してほしいと清水さんはいふ。「時間はかかって、活動が根づいて新しく生まれたいです。参加していた親世代が担い手に、そして高齢者となった親世代が参加者に、子どもたち世代が担い手になる。それがひとつのサイクルになると、安心して年をとっていきけるような、そんな地域になったら嬉しいですね」



さまざまな世代が集まる

「協議体」の活動は、堀内に限らず葉山の他の地域にも広がっている。まずは気軽に参加して、そこから生まれるものを楽しみたい。